

平成25年度A日程入試法律専門科目試験 出題の意図

公法 出題の意図

問題1

本問は、国籍法違憲訴訟に関する最高裁違憲判決を題材としている。

問題では、最高裁判所のような司法裁判所が差別の救済方法として、どこまで踏み込んで具体的措置を提示できるかを、三権分立の原理との関係で体系的にどのように調整すべきかを問うのが出題の意図である。

問題2

問1 行政代執行法の理解を問う問題である。代執行の前提となる義務は代替的作為義務出なければならないところ、明渡し・立退き義務に伴う存置物件の搬出義務が代替的作為義務といえるかどうか争点である。

問2 損失補償の要否を問う問題である。同種の事案について、最判昭和49年2月5日（民集28巻1号1頁）は、行政財産の使用許可によって与えられた使用权は、本来の用途または目的上の必要を生じたときはその時点において原則として消滅すべきものであり、そのような制約が権利自体に内在しているから、損失補償は不要であるとしている。

私法 出題の意図

問題1

通謀虚偽表示（民法94条）、錯誤（民法95条）に関する問題である。その論述により、民法上の重要な問題に関する基本的知識の修得度および論理的思考能力が試されることになる。

問題2

特に有利な払込金額による新株発行と取締役の第三者に対する責任（429条1項）に関する問題である。その論述により、会社法上の重要な問題に関する基本的知識の修得度および論理的思考能力が試されることになる。

刑法 出題の意図

事前に被害者からキャッシュカードを窃取していた犯人が、その暗証番号を聞き出す目的で、被害者に暴行・脅迫を加えて反抗を抑圧し殺害した行為につき、2項強盗殺人罪の成否を問うものである。